



共愛学園前橋国際大学 ▶ 1888年前橋英和女学校設立。1988年開設の共愛学園女子短期大学を経て、1999年に開設。▶ 1学部2専攻5コース。▶ 学生数は約1000人 ▶ GGJ、COC、AP、COC+の各事業の採択を受ける。THE世界大学ランキング日本版2017国際性27位

共愛学園前橋国際大学の取り組み

課題

- ▶ 自学のポジションへの認識
- ▶ 企業や他大学からの評価の高まりに比べ、高校に教育内容が知られていない

	見直し前	見直し後
方針と重点施策	開学当初は国内初の国際社会学部のため全国から募集できると考えていたが、開学後数年で見直し	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地元重視 ▶ 県外進学希望者からも「選ばれる教育・大学」をめざす ▶ 県内の高校、企業、行政と地域の課題解決や人材育成に取り組む
組織体制	学生募集:入試広報センター 地域連携:地域共生研究センター	担当部署は同じだが、その都度最適な体制をとるよう全学的に対応。今後は高大接続の担当窓口を設置する必要性を感じている
成果指標	入学者数、就職率	入学者に占める県内出身者比率、県内就職者比率、就職先種別就職者数
高大接続改革への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 学生が指導役となり、県内の高校生にアクティブ・ラーニングを提供 ▶ 県内の高校のグローバル教育を学生や教員が支援 ▶ 独自開発したeポートフォリオを併設中高や公立校と共有 	<p>学生が高校生にALを提供する高大連携コラボゼミ(左) 太田市立太田高校での課題研究授業(右)</p>

地域人材の育成

高大接続は学生募集のためにあらず

共愛学園前橋国際大学

地域の人材を育てる取り組みが地元の評価を高め、「結果的に」好調な学生募集につながっている地方小規模大学の事例を紹介する。

地元の大学として生きる決意と一貫した取り組み

本学が真剣に地域の人材育成に目を向けるようになったきっかけは、開学2年目に起きた定員割れでした。日本初の「国際社会学部」なのだから当然全国から受験生が集まるだろうという過信があり、地元で130年の歴史を誇る「共愛学園」としての強みを認識していなかったのです。

その反省から地元の高校を訪ね歩いて伺った声は、学費支援のための資格特待生制度等の設置や学ぶ内容をわかりやすくするコース制導入に生かされています。さらには自学の立ち位置を「地域の人材育成に注力する地域の大学」と見直すことにもつながりました。その後採択されたGGJ、COC等各事業では、どれも一貫して地

学一体をテーマとしています。

群馬県の18歳人口は2020年から減少します。現在、大学進学者数約9千人のうち、県内進学は約3千人、残り約6千人が県外進学です。県内進学者の多くは県内企業に就職をするため、地域の高校との接続により高校生が地元で目を向け、学力の3要素を伸ばすことができれば、高大接続はまさに地域人材育成に他なりません。たとえその高校生が本学に進学しないとしても、地域に還元してくれるのであれば、高大接続の目的は達成されたと言えます。

高・大7年間で若者を育てるという文化

地元の高校と行っているさまざまな連携事業の特徴は、学生主体のピア・ラーニングが多いことで

す。県の少子化対策プログラムの一環で高校生が学生とライブデザインを考えるもの、毎週学生が高校に通って商品開発や英会話を行うもの、最後に三千字の論文を書くゼミ形式のもので、さまざまなテーマで学生が高校生の学びを支えています。ビジネス系ではGunma Innovation Award受賞学生が教えるプログラムもあり、高校生はアワードに応募もします。このような大学生との学びの体験は、どの大学に行っても役立つことでしょう。

アクティブ・ラーニングや進路指導担当の先生の研修や集まりなどにも呼ばれるようになりました。高校の先生方の支援をさせていたことは、間接的に高校生の学びを支援することになります。2016年には、「高大」と「産」をつなげる試みとして、「地域人



学長 大森昭生

おもしろあきお ● 東北学院大学大学院文学研究科博士前期課程修了。1996年共愛学園に着任。2007年から教授。2013年に副学長、2016年に現職。専門はアメリカ文学。群馬県教委高大連携推進協議会委員、同教員育成協議会委員、県内SGH・SSH運営指導員、県青少年健全育成審議会会長ほか、国、県、市の公的委員を多数務める。

取材・文／見山雄介 撮影／柳田隆司

高校の視点

先輩学生たちは、地域グローバル人材の成長モデルのような存在です

太田市立太田高校 教務主任 石関英樹先生 ▶ 群馬県太田市 ▶ 普通科、商業科の2学科、生徒数772人 ▶ 1964年太田市立商業高校として開校。2012年度に併設校として太田市立太田中学校が開校。1期生受け入れに伴い、2015年度から現高校名に改名 ▶ 進学実績(過去3ヵ年)国公立大/群馬大、高崎経済大 他 私立大/共愛学園前橋国際大、足利工業大、関東学園大、神奈川大 他



市を支える自動車産業では生産・販売拠点の海外シフトが進み、グローバル人材の確保が急務。そこで2015年度にグローバル人材育成事業「市立太田グローバルプログラム」を開始して、前国さんと連携しています。地域人材育成協議会での評判と、ALの取り組みが盛んだったことから、大森学長に実行委員会の副会長をお願いしました。

学生と生徒が飲み物片手に英語で会話する「DRINK ENGLISH」「高大連携コラボゼミ」や「ビブリオバトル」などが次々実現しています。コラボゼミは同大学と本校の教員が協働でカリキュラムを作成し、修了した学生、生徒ともに同大学の単位が与えられる異色の取り組み。高大が力を合わせて

生徒を育てている感覚を持っています。

前国さんの学生は鍛えられていて力があります。彼らが生徒を鍛え、多面的なものを見方を示唆してくれています。希望進路が漠然としていることが多い商業科の生徒が、自身の成長モデルとなる学生とふれあい、大学を身近に感じられる意義は大きいです。このような定期的で内容の濃い交流により地元への関心が強くなり、前国さんへの進学をめざす生徒も徐々に増えてきています。入学後、大学に知っている先輩がいるというのも、生徒にとっては心強いことでしょう。

今後も真の意味での高大連携、シームレスな教育に取り組んでいきます。

高大接続は、地域の中で高校と大学が一緒に高校生を育て、そのプロセスで大学生も成長させてもらう取り組みです。結果として、あくまでも「結果として」、本学に進学してくれたらうれしいですが、それを目的にしてしまうと高大接続の本質を見誤り、うまくいかないのではないのでしょうか。